

“My School” in 2030	
「グローバルアントレプレナーアカデミー東北」(Name / Concept) (学校名/コンセプト)	
Mission Statement 学校のミッションステイトメント・理念	環境問題や少子高齢化など、今後起こることが予想される様々な問題を、単なる知識として学ばせるのではなく、自分事としてとらえさせる。これらの問題をビジネスチャンスとしてとらえ起業させることで、真剣に（ガチンコで）これらの問題に向き合わせることができる。起業成功のために積極的に社会（社会人）と交わせることは国の成長を担うイノベーターの育成につながる。さらに、自分の将来の姿を具体的にイメージさせることで、得た知識を積極的に活用する意欲を育てることができる。
Of the various challenges the world will face in 2030, my school will address... 2030年、世界が抱える多くの課題の中で、この学校が解決目指す課題は・・・	1 子どもの学習意欲と学力の低下 講義形式で進められる入試突破のための授業は、今学習していることは将来役に立つという seeds 重視の教育である。しかし、子どもは「自分が何のために学習しているか」を実感できず、学習意欲を失う子どもが多い。結果、学力も低下している。社会の needs や子どもの needs に応える教育が求められる。 2 社会と子どもの乖離 従来、学校での学習内容や活動の多くは、実社会との関係に位置付けられることは少ない。そのため、社会が抱える様々な課題の解決に学校での学習が寄与するとは実感しづらい。環境問題や経済問題は学校や地域レベルで解決することは難しく、国、世界レベルでの取り組みが不可欠である。子ども一人一人の意識や自覚を高めるためには、子どもが「自分が社会とどうつながっているか」を実感できる教育システムの構築が求められる。 3 社会の変化への対応力と未来を展望する力を持つ人材の偏在 学校は子どもに受験を勝ち抜く術を教えるという任務を背負っているためか、保守的な空間になっている。変化を好まず、従前通りの教育が繰り返されるため、社会の変化に対応する力を身につけさせているとは言えない。起業や就業の体験を通して、リスクヘッジやチームでの協働、創造的な問題解決など、社会で働く際に必要とされるスキルを学ぶ場が必要だ。
To address these challenges in 2030, my school will aim to develop these competences.... 上記の課題を解決できる人材育成のため、この学校が開発を狙うスキル・能力は・・・	1 10年後の理想的な自分をイメージできる力。それを目標として、実現するために未来から逆算して「いま何をすべきか」を考えることができる力。社会で頑張っている人に憧れ、得た知識をフルに活用して将来社会で活躍したいと思えるような子どもを育てたい。 2 自分が考えた起業やプロジェクトを成功させるために、事業主、司法書士、税理士、弁護士など様々な分野の専門家のアドバイスを受けることになる。そのためにはチームワーク力（人間関係調整力、協働力）や調査能力が必要となる。スポンサーが必要であれば、協力を求めるためにプレゼンを行うことになるのでその力も求められる。 3 ずばり「レジリエンス」を身につけさせる。常に先を読み、危機管理をするとともに、危機に直面してもへこたれず、力強く立ち直る力を身につけさせる。時としては、先を読んだ結果、進歩や開発が人間らしさや人間の尊厳を危うくすることが予想できる場合はあえてその開発に待ったをかける勇気も育てたい。
To effectively run this school... この学校を具現化（効果的に運営）するための	
School system 学校システムは・・・	幼小中高大一貫校とする。学年規模は100名前後、クラス規模は20名×5クラスの少人数学級とするが、下述の通り、学年の壁が取り払われたカリキュラムで学ぶ。この学校の理念と

	<p>システムに賛同する生徒と保護者であれば自由に入学できる。ただし定員内に限る。OECD 東北スクールの特長であるダイバーシティを売りにし、学年や年齢、性別、出身地、国籍などの枠に縛られることなく、協力して授業に参加したり、起業したりできるようにする。講師陣には、退職され、かつ経験豊富な高齢者等も取り込む。</p> <p>カリキュラムは、一般教養および選択制の教科学習と、アントレプレナーシップ的な自主的活動の2本柱でできている。自主活動は子どもと大人で話し合い学年ごとに設定し、なおかつ学年途中での修正も可能とする。学年の終わりにレポートやテストなどが行われ、合格すれば、次のレベルや別のカテゴリーに進むことができる。全てのレベル、カテゴリーを網羅し、合格すれば卒業。教科学習は、到達目標を設定し評価を教員によって行う。自主活動の部分については評価を学校と契約を結んだプロボノがおこなう。なお、起業以外の利益を出さない分野に取り組むことも可能とする。例としては、環境問題、平和問題、人権問題など。取り組みと成果をレポートとしてまとめ合格を目指す。</p>
<p>Classroom 授業形態は・・・</p>	<p>高校までは、転出したとしても問題が生じない程度の一般教養科目と、選択制の教科を設ける。それらの学習活動では、東北スクールと同様に、生徒（子ども）と先生（大人）は対等な立場とする。選択制のものは生徒自身が将来のことを考えて自分で選択する。まだ将来の自分をイメージできないという生徒は、一度はどれか選択するが、自分にとって必要がないとわかったら変更することができる。また、教える立場の人は「なぜこの授業は必要なのか」「将来どのようなことに役立つのか」を学ぶ側の人に常に意識させながら教える。いづれにしても、少人数でのディスカッション型の学習活動と、年齢あるいは学習到達度が高い者が教授者となり、教師はファシリテーターとしての役目を主に務める。</p>
<p>Pedagogy 教え方・学習方法は・・・</p>	<p>一般教養や選択授業は、「先生が生徒に教える」のではなく、「その教科が得意な生徒が他の生徒に教える」というスタイルをとる。教える側の生徒が本当に困ったときのみ、先生は手助けをする。年に数回、学校側より生徒たちに課題を与え、その課題が出たときは、その課題の解決に集中できるようにする。</p> <p>アントレプレナー的な自主的活動では、生徒自らが組織を作り起業へ向けて活動を行う。その運営過程で、赤字が出ないように企業人からのアドバイスやリスクヘッジの方策を練っておくが、赤字が出た場合には学校全体の予算で補てんする。黒字の場合は、20%を学校の予算に組み入れ、80%を自分たちの運営資金や、更なるプロジェクトの立ち上げに利用する。学校から与えられた課題解決に向け、生徒たちは自分が必要だと思うこと（グループ編成やリーダーの選出など）を把握・発見し、全生徒が協力しながら解決する。先生は、「課題解決」「起業したプロジェクトの成功」などが生徒にとってうまくいくように適切にサポートする。</p>
<p>Resourcing (financing/expertise) 経営（収入源、経験（現物）など含む）</p>	<p>「グローバルアントレプレナーアカデミー東北」は国もしくは県によって経営される公立学校とする。なぜなら、地域で生きる人材の育成や起業による地域の活性化が期待できるからだ。また、OECD 東北スクールのように、子どもの起業に共感する方々からの支援も積極的に受け入れる。生徒の起業に関しては、生徒自ら銀行や企業などから直接融資を受けるようプレゼンをするなど努力をすることを前提とする。その他の教育課程については、授業料を徴収するなど、従来通りとする。</p>
<p>参考にした資料・文献</p>	<p>「私の学校、私たちの未来、2030年の学校」</p>

幼	小	中	高	大
一般教養	選択	アントレ 選択	アントレ 選択	アントレ プレナー シップの 自主活動
	一般教養	一般教養	一般教養	

